

## 昭和20年9月仁川でのある出来事

終戦の昭和20年10月、私はプサンから日本の九州博多港へ家族で引き揚げて以来70年振りの懐かしい思い出の地です。と言っても当時私は4歳、何も覚えていませんが、以前亡き父から聞いた話を再掲させていただきます。

敗戦国日本、特に外地にいた日本人は朝鮮人や中国人の暴動に悩まされていました。昭和20年9月末、父と私達姉弟は仁川の日本鉄道の日本人住宅で夕食をしていました。隣りから女性の声で「土足で何ですか！何をするんですか！」そして朝鮮語で幾人かの男の怒鳴る声が聞こえて来たそうです。

父はこれは異常事態だ、普通ではないと危険を感じ、私達子供を押入れに隠し何があっても声を出さずなどと言って子供の茶碗をかたづけました。卓袱台に座っていたら25～6人の朝鮮人が土足で何か怒鳴りながら入って来たそうです。頭に「朝鮮青年行動隊」と書かれた鉢巻をしていたそうです。父は明治の男ですから「何だ！貴様ら！」と怒鳴り返したら、表に引きずり出され、こづかれながら街の真ん中にある広場まで引き立てて行かれました。そこで日本人は次から次へと斧で殴り殺されたそうです。

自宅から広場まで500メートル位で、引き立てられて行く途中、30名位の朝鮮の違うグループとすれ違い、そのグループのリーダーらしい朝鮮人が父の顔を見て「松田さんじゃないですか」と言いました。その人を見るとキムさんと言って母(同年8月死亡)がよく自宅に招いて食事等お世話し、懇意にしていた人でした。リーダー同士で話し合い、父は解き放され、キムさんに今晚中に逃げる様にと言われたそうです。

私達は父が帰宅するまで押入れに声を立てず隠れていました。父が帰るとすぐ荷物まとめ、夜中でしたが線路に沿って隠れ隠れ何キロも歩いたそうです。朝鮮人のグループは数え切れないほどいて、私達日本人を汽車に乗せまいと襲ってきます。日本人が駅に何百人も集まっても朝鮮人はその何倍もいてとても危険でした。

これも父から聞いた話ですが、日本人を守る為12歳～18歳までの若者(元日本兵も)に志願させて150名位いたそうです。白虎隊の鉢巻をして木刀や素手で朝鮮人と戦ってる間に、日本の家族を汽車に乗せたそうです。緊急連絡を受けた米軍MPが駆け付けた時は日本の若者白虎隊は全員死んだそうです。

ソウルからプサンまでまだいろいろな事があったと聞いています。父は言いました。いつでも、死は覚悟していた、ただ子供達には何とか日本に無事帰国をと懸命だったと。

現在私が今生きている事を不思議に感じます。生かされている事、感謝しています。